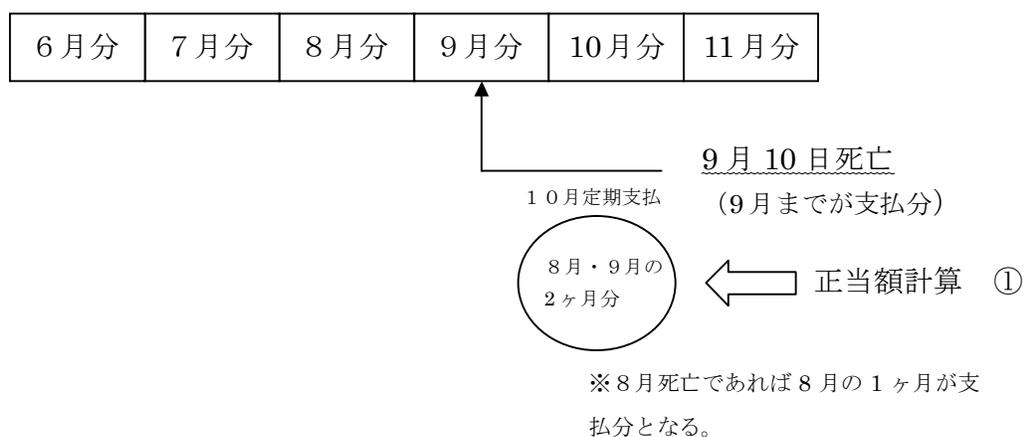


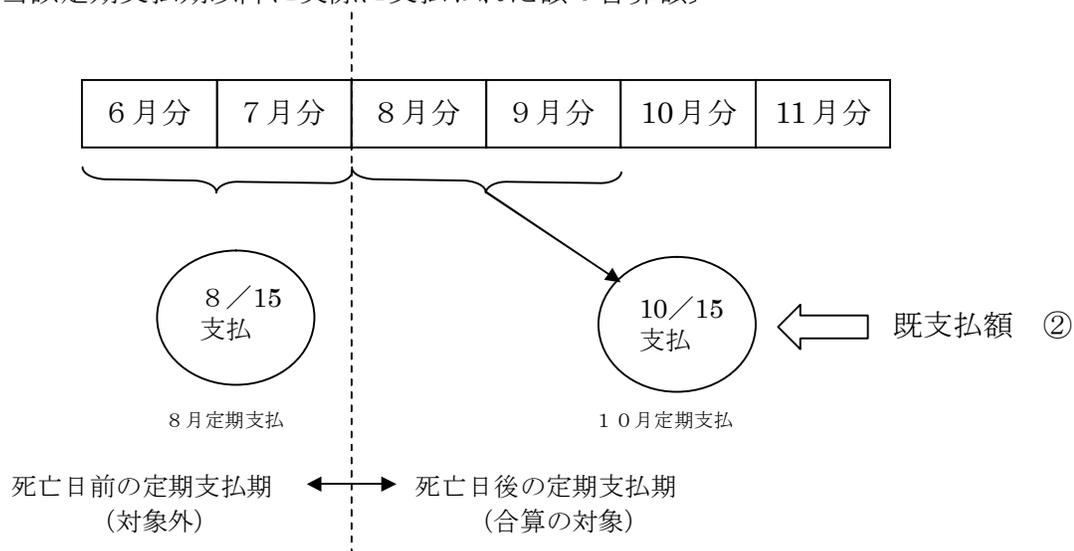
## I 債権額計算方法（概念図）

年金を受給する権利を失った（死亡した）際の債権額は、死亡した日が属する月分を含む定期支払（死亡日の直後の定期支払）における正当な月分（死亡した月分）までの支払額を算出し、この額から当該定期月以降に、実際に支払われた支払済額を差し引きして過払い額（マイナス額）を算出する。

[死亡した日の直後における定期支払期での支払額の算出]



[当該定期支払期以降に実際に支払われた額の合算額]

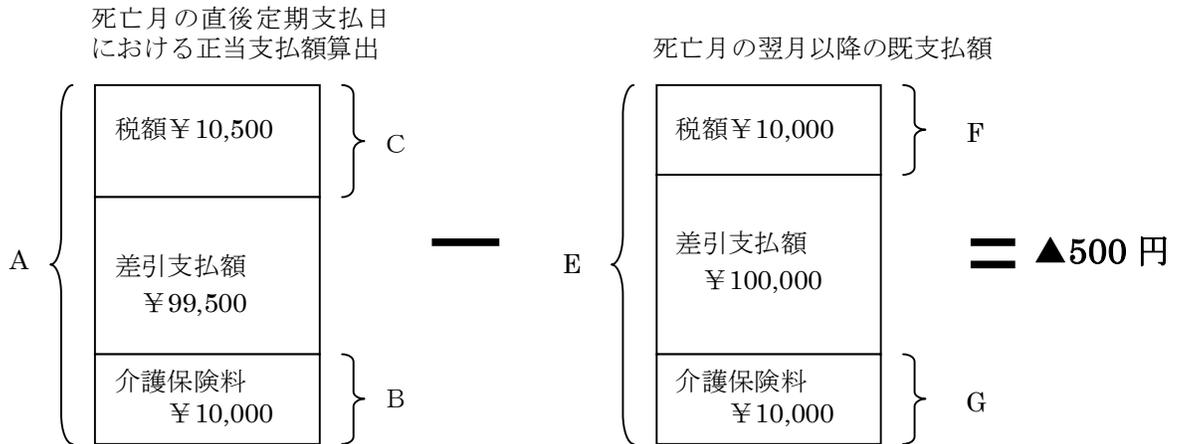


① - ② = 債権発生額を算出

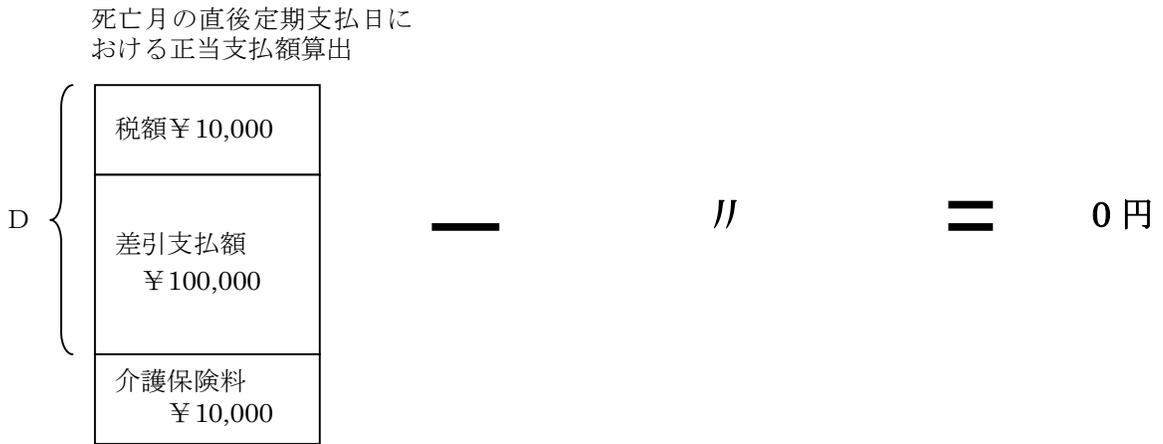
## II 債権額計算方法（事例）

死亡月までの年金の支払が完了しており、本来では、未支給も過払いも発生しない場合の例

誤（誤ったプログラムで算出された額）



正（本来額）



**正当支払額** — **既支払額（支払記録）** = **債権発生額**  
 《年金額×n/12-介護額-税額》

99,500円 — 100,000円 = ▲500円  
 A B C E F G  
 (120,000-10,000-10,500) — (120,000-10,000-10,000)

年金額を基に正当支払額（介護額・税額含む）を正しく算出

介護保険料を控除した額（D）を基に税額を算出すべきところをプログラム誤りにより介護保険料を含めた額（A）を基に誤った税額を算出

支払記録の足し上げにより既支払額を正しく算出